

○豊かな自然と歴史に恵まれた国境の島。平成26年に「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」として日本遺産に認定された。

○歴史・自然・文化など独自の観光資源を十分活かした魅力ある観光地づくり、韓国人観光客を対象とした旅行商品や土産物の開発が課題。

○県は、平成18年に「長崎県観光振興条例」を定め、これに基づき平成28年度から平成32年度までの「長崎県観光振興基本計画」を策定し、市においても、この計画に基づき平成28年度から平成32年度までの「対馬市観光振興推進計画」を策定することとしている。

この中で、対馬地域での取組施策として大きく2つの項目を掲げている。

1. 雄大な自然を活かした観光地づくり

A. 体験型観光メニューの開発

- ・シーカヤック、トレッキングなどとセットとなる新メニューの開発
- ・キャンプ施設等の整備

B. 四季の恵みの食資源開発・普及

- ・観光物産展、食フェアによる島外へのPR
- ・四季折々の食材を利用したメニューの開発（閑散期の観光対策）

C. もてなしの案内機能充実

- ・案内情報板の整備
- ・対馬もてなしガイドの養成

D. 情報発信・誘客戦略強化

- ・新聞や専門誌等での情報発信
- ・旅行会社への営業、修学旅行の誘致

2. 韓国との交流を活かした観光地づくり

A. 観光基盤の充実

- ・厳原港、比田勝港ターミナルの整備、入管施設の拡充
- ・大型宿泊施設誘致事業
- ・公衆無線LANサービスの拡充

B. 韓国人観光客向け商品開発

韓国人観光客の嗜好を把握し土産品等の新商品を開発

C. 韓国に魅力を伝えるための人材育成

対馬高校国際文化交流コースを活かした島内外への対馬の情報発信、誘客

D. 韓国人観光客のもてなし充実

観光事業者、市民向け韓国語講座の開催

E. 情報発信・誘客戦略強化

- ・対馬釜山事務所を活用した韓国国内旅行社への情報発信
- ・韓国語パンフレット、DVDの作成

F. 交流イベントの実施

国境マラソン I N 対馬、対馬厳原港まつりなどの実施

第1節 観光の概要

対馬の観光は、邪馬台国の古代より大陸と日本の接点として受け継がれてきた歴史的・文化的資源と風光明媚な自然景観から成り立っている。

歴史的資源の主なものとしては、武家屋敷、日本三大墓地の一つと言われる万松院（対馬藩主宗家菩提寺）、1,300年以上前に築かれた金田城などの多くの史跡がある。

資源景勝の中で最も雄大なものとしては、本島中央部に位置する浅茅湾があげられる。リアス式海岸特有の湾曲に富んだ入り江と大小無数の小島からなり、上見坂公園、烏帽子岳展望所からの眺望は圧巻である。

また、本島は、比田勝から博多まで海路 147 k m に対して、釜山までは 49.5 k m の位置にあり、視界が良好であれば韓国を見ることができ、それを楽しみに来島する観光客も多い。

観光客の入り込みは、平成 23 年 10 月から国際航路 3 社体制となってから韓国人観光客が大きく増加したことにより、全体的に増加している。

個人のライフスタイルの変化や体験型観光への人気の高まりなど、観光業界をとりまく環境が変化するなか、少人数グループの旅行者にも対応可能なきめ細かい旅行商品の開発・提供、船を活用した観光ルートの整備、対馬独自の体験型観光資源（そば打ち、原生林探訪、シーカヤック、スキューバダイビング

など)整備、宿泊施設の充実等魅力ある観光地づくりが求められている。

第2節 各地域のみどころ

1. 巖原町

○万松院

元和元年(1615年)宗家19代(対馬藩初代藩主)義智公よしとしの菩提寺として創立され、歴代藩主の霊を祀ってきた。金沢市の前田藩墓地、萩市の毛利藩墓地とともに日本三大墓地の一つと言われている。桃山建築の遺構を伝える山門横の百雁木ひゃくがんぎと呼ばれる自然石段を登りつめると歴代の藩主と一族の墓が並んでいる。4~5mにも及ぶ巨大な墓石もあり壮観である。

なお、対馬藩主宗家墓所や三具足(日本遺産構成文化財)のみならず、本堂に徳川歴代将軍の金箔の大位牌や朝鮮通信使資料等、藩政300年の貴重な資料が保存されている。(国指定史跡)

○金石城跡かねいしじょう

旧対馬藩主宗家十万石の居城で往時を偲ばせる城壁、城門跡が見られる。平成2年夏には、櫓門やぐらもんが再建された(国指定史跡)。

○旧金石城庭園しんじいけ(心字池)

金石城跡の西端に位置し、俗に「心字池」と呼称される。対馬藩主宗家墓所と背後の山並みを借景とし、園地の縁辺部に配された景石と玉砂利敷きの洲浜は、対馬の海岸風景を模したものと考えられる(国指定名勝)。

○県立対馬歴史民俗資料館

昭和53年12月に開館され、島内の文化財、歴史資料、民俗資料、宗家文庫などの貴重品を収録展示している。県指定有形文化財である朝鮮国信使絵巻を収蔵。

○対馬藩お船江跡

久田浦に注ぐ久田川河口に残る5基の船着場は、旧藩時代の御用船を係留するため作られた人工のドックである。寛文3年（1663年）に造られたものと言われ、貴重な遺構である（県指定史跡）。

○武家屋敷跡

市街地の西、馬場筋通り一帯に高い壁に囲まれた旧武家屋敷が軒をつらね、苔むした石垣塀が軒下に届くほど高く造られている。これは、対馬來島の朝鮮通信使に武家生活の内部を見られることを避けるために造られたものとも言われている。

○なからいとうすいかん半井桃水館

樋口一葉の師である半井桃水の生家跡に建築された施設。桃水関連の資料を展示。市民の交流の場の提供等を行っている。

○かみさか上見坂公園

厳原町の北部に位置し、展望台からは日本の代表的なリアス式海岸である浅茅湾が望める。

○しいね椎根の石屋根

対馬下島の西岸、椎根の集落にある。風が強い対馬では、農産物等の格納小屋の屋根には、瓦のかわりに自然の石が使われていた。対馬の石の文化を代表するものである（県指定有形文化財）。

○こもだはま小茂田浜

小茂田浜には、文永11年（1274年）、約4万人の元軍が9百隻の大船団で来襲し、守護代宗助国をはじめ防戦した全員が討ち死にした。小茂田浜神社に、その霊を祀ってある。

○^{たてらやま}龍良山

海拔 558.5m。北側斜面に原始林が広がっており、自然度が極めて高く貴重な存在である（国天然記念物）。

○^{つつぎきえんち}豆酩崎園地展望所

点々と続く岩礁と小島の先に白い豆酩崎灯台が建っている。潮流が速く、朝鮮海峡と対馬海峡の境界にあたる。

○体験であい塾「匠」

平成 12 年にオープンした体験型の観光施設。そば打ち体験や若田石硯の制作体験ができる。

○^{いさりび}漁火公園

平成 13 年にオープンした東海岸の高台にある公園。朝日が水平線から望め、夜にはイカ釣りの漁火が広範囲に楽しめるスポット。敷地内に足湯「対馬海峡漁り火の湯」がある。

○観光情報館 ふれあい処つしま

平成 27 年 5 月に厳原町今屋敷にオープンした施設。対馬藩の家老・古川家の「長屋門」を再現したもので、施設内には、「観光案内所」「観光の間」「特産品の間」「体験憩いの間」などが設置されている。敷地内に路線バスのレーンもあり、島内各地への交通の起点となっている。

2. 美津島町

○^{まんげきばし}万関橋

旧海軍の要港が明治 29 年竹敷浦に置かれ、大小の戦艦が出入りできるように運河が採掘され、元々一つの島であった対馬島は二つの島に分割された。この瀬戸に架けられた橋が万関橋である。橋の上からは、三浦湾、浅茅湾が眺望でき、現在は三代目の橋が架かっている。

○浅茅湾

対馬上島と下島との中央部に位置する典型的なリアス式海岸。湾内には、大小無数の島が点在する風光明媚な海域。湾内各所では真珠養殖が盛んに行われている。

○^{のこわきいわ}鋸割岩

浅茅湾の西口に位置し、溺れ谷特有の岩形。鋸で割ったような鋭い絶壁。

○^{ねそ}根曾古墳群

美津島町の高浜にある前方後円墳。横穴式古墳で鬼の岩屋と呼ばれる。古代鉄剣などが出土している（国指定史跡）。

○白嶽

日本系と大陸系植物が混生する原始林は、国の天然記念物に指定されている。標高 519m の頂上に石英斑岩が顔を出す霊山は、対馬のシンボリック的存在である。

○金田城跡

天智天皇 6 年（667 年）に築かれたものとされ、浅茅湾に面した山の中腹に、高さ 2～5m の城壁が 5 k m 余りにわたって残っている（国指定特別史跡）。

○^{ほいらんじ}梅林寺

538 年百済の聖明王が仏教・経典を伝えた仏教公伝ゆかりの地に建立された古刹。日本から朝鮮へ渡航する者は、対馬島主宗氏の^{ぶんいん}文引（出国ビザ）を必要としたが、この文引を発給する事務を行ったのが当寺で、鉄歛という僧がこの任に当たり、その後、佐賀に移ったと言われている。南北朝時代に作られた京都東福寺版の大般若経 597 帖や 9 世紀～11 世紀の作といわれる誕生仏などがある。

○対馬ふるさと伝承館

平成15年にオープンし、対州そば等が味わえる。そば打ち、若田石硯制作、真珠細工、木竹工芸、陶芸の体験ができる。

3. 豊玉町

○和多都美神社

わたづみ
彦火火出見尊ひこほほでみのみことと豊玉姫命を祭る海宮で、海神神社の一の宮として古くから竜宮伝説が残されている。

○烏帽子岳展望所

えぼしだけ
和多都美神社の背後にそびえる烏帽子岳は、日本有数のリアス式海岸である浅茅湾の変化に富んだ眺望が、360度展望できる。

○綱島・カノ瀬

対馬中部の西海岸、豊玉町小綱の湾口に北から神ノ島、中ノ島、榎島の順に三つの島が浮かぶ。島は神域で原始林に覆われ、多くの大陸系植物や白ツバキの群落が見られる。また、榎島の南側に位置するカノ瀬は、別名「ゴリラ岩」の愛称で親しまれている。

○千尋藻の漣根

ちろもれんこん
浅い海岸にさざ波がたった状態がそのまま化石となったもの（県指定天然記念物）。

○豊玉町郷土館

豊玉町の縄文時代から古墳時代の遺跡から出土した考古資料を中心に展示している。

4. 峰町

○木坂^{きさか}海神^{かいじん}神社

峰町にある対馬の一の宮「海神神社」のある木坂は、神地として往古より著名であり、神功皇后がこの地に立ち寄られ伊豆山の麓に幣を捧げ三霊を拝されたと伝えられる。八幡宮の起源は、対馬の木坂とされている。

○青海^{おうみ}の里

峰町の西海岸にある集落で、段々畑と紺碧の海に囲まれた風光明媚な景勝地。この集落には、両墓制という珍しい習俗があり、海岸に「埋め墓」、お寺に「拝み墓」と2つの墓が造られている。

○峰町歴史民俗資料館

峰町には、縄文時代から近世に至るまでの重要な遺跡が点在しており、ここでは、峰町の遺跡から出土した考古・民俗資料を中心に展示されている。

○円通^{えんつうじ}寺

応永15年(1408)に藩主宗貞茂が佐賀に開府して以降、貞国が府中(巖原町)に屋形を移すまで60年間対馬統治の府であった。円通寺裏の「宗家墓地」(県指定史跡)に、宗氏一族の墓(宝篋印塔もある)が建っているが、無銘の為人名不詳である。対馬の名刹。

○対馬市ファミリーパーク

ゴーカート、ローラー滑り台、ソリゲレンデ、屋根付き運動場から船グロー体験館など、子供から大人まで楽しめる多目的都市公園。地元でとれた新鮮な野菜や魚介類を購入できる直売所がある。

5. 上県町

○棹崎^{さおざき}公園

72haを超える広大な公園。平和の広場、せせらぎ園地、自然椿園などの施

設がある。日本最北西端の碑があり、気象状況に恵まれば、韓国釜山市の夜景が展望できる。

○千俵^{せんびょう}蔭^{まきやま}山

佐護から6kmのところであり、全山草地でおおわれ、その昔、防人、烽火^{とぶひ}が置かれ朝鮮から対馬に向かう船の目標となった。また、秋晴れの日には、韓国連山が夕日の沈む水平線にくっきりと浮かぶ。

○御^{みたけ}嶽

古くから御嶽(490m)は、対馬の霊山として信仰を集めた。幻の鳥「キタタキ」が棲息していたと言う原生林は今も深く、そびえ立っている。

○そば道場「あがたの里」

平成8年にオープンした対馬産そば料理専門店。対馬産地鶏のだし汁で作った「いりやきそば」などを味わうことができ、そば打ち体験もできる。

○対馬野生生物保護センター

ツシマヤマネコをはじめ、対馬に生息する野生生物の生態や現状について理解と関心を深めてもらうため、平成9年にオープンした。対馬の自然を展示でわかりやすく解説し、平成15年からは保護啓発を目的としてツシマヤマネコの一般公開を行っている。

○天神^{てんじん}多久^{たく}頭^{くず}魂^{だま}神社

定観12年(870年)3月5日「日本三大実録」の授位に、その記載が見える。上県^{かみぐん}の佐護と下県^{しもぐん}の豆^{まめ}殿^{だん}に、天童法師伝説の信仰として天神地祇を祭った古い神社で、社の無い磐座^{いわくら}の祭壇で有名である。

○バードウォッチング公園

上県町佐護平野は、渡り鳥の中継地として知られており、珍しい野鳥を数多

く観察できるという絶好の場所。4階建の観察塔が建っており、全国から多くの愛鳥家がバードウォッチングに訪れる。

○目保呂ダム馬事公園

対馬固有の在来馬・対州馬を繁殖・飼育しており、乗馬体験ができる。対州馬をより身近に感じてもらうため、毎年秋頃に「対馬初午祭」を開催している。

6. 上対馬町

○鱧浦わにうら

対馬の最北端に位置し、朝鮮への船泊まりとして知られ、文禄・慶長の役後、己酉約条によって改番所が置かれた。沖合には、航空自衛隊のレーダー基地うに海栗島があり、その周辺は、ウニ、アワビ、サザエ、ワカメ等の好漁場である。国の天然記念物の「ヒトツバタゴ」が集落周囲の山地に自生し、5月初旬に白い花を一斉に咲かせる。この時期、「ヒトツバタゴ祭り」が開催されている。

○殿崎公園・三宇田浜とのさき みうだはま

比田勝北東部に細長く突き出た半島で、明治38年5月に、日本海海戦時沈没したロシア艦船モノマフ号の兵143人がボートで上陸した地。当時の連合艦隊司令長官東郷元帥の題字が刻まれた露兵上陸記念碑（「恩海儀僑之碑」）が建っている。すぐそばの三宇田浜は、平成8年に「日本の渚百選」に選ばれた。近くにキャンプ場施設も整備されており、対馬海峡を望むことができる「上対馬温泉 渚の湯」がある。

○韓国展望所

韓国の古代建築様式を取り入れた展望所。釜山市までわずか49.5kmの距離にあり、天候に恵まれればその街並みも望める。

○茂木浜もぎはま

日本海海戦でロシア艦隊とこの沖で激戦を交し、その勝利を記念して戦勝記

念碑（「義勇報公之碑」）が建てられている。

○^{きん}琴の^{おお}大イチョウ

上対馬町東海岸の琴の集落にあるイチョウの木。幹回りが13m以上、樹高31mもある大木で、推定樹齢は1,500年を超えるといわれる。度重なる落雷で中は空洞化しているが、樹勢は盛んである（県指定天然記念物）

○舟志もみじ街道

もみの木の緑と川の流れるに映える紅葉の見事なコントラストが美しく、訪れる人を魅了する。

○上対馬町歴史民俗資料館

古来より大陸文化の窓口として重要な位置あった対馬（上対馬町）の歴史と文化財を紹介している。

第3節 観光客受入状況と今後の課題

1. 観光客受入状況

現在、島内宿泊施設は旅館・ホテル等33軒、民宿53軒、民泊16軒、計102軒で、収容人員は2,420人である（平成26年4月1日現在）。

一軒当たりの収容人員は平均23人であり、依然として大型団体の受入体制に検討課題が残されている。なお、国際航路の定期化により韓国人観光客が増加したことに伴い、平成14年夏に、同航路を就航している大重高速海運が、韓国企業誘致としてはじめてとなる対馬大重ホテルを巖原町に開業した。

観光客延数は平成12～15年にかけて増加傾向にあったが、平成16～17年に減少に転じ、平成18年からは再び増加したものの、円高ウォン安や新型インフルエンザ等のため平成21年に大幅に減少した。しかし、平成23年10月よりJR九州高速船、11月には未来高速が新規就航し、3社体制となったことにより、平成24年より大幅に増加した。（出入国者数は第4節「国際交流」参照）

第9-1表 対馬の宿泊施設数、収容人員数

(H26.4.1 単位：軒、人)

	旅館・ホテル		ビジネスホテル		国民宿舎・YH保養所・その他		民 宿		民 泊		合 計	
	数	収容人員	数	収容人員	数	収容人員	数	収容人員	数	収容人員	数	収容人員
対馬	15	564	11	513	7	255	53	999	16	89	102	2,420

長崎県観光統計

第9-2表 対馬の観光客延数の推移

(単位：人、%)

区 分	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26
観光客数	690,125	730,818	655,615	865,869	982,653	1,009,661
対前年比	86.8	105.9	89.7	132.1	113.5	102.7

長崎県観光統計

第9-3表 平成26年対馬の観光客数の内訳

(単位：人、%)

観 光 客 延 数	日 帰 り 客 数	宿 泊 客 延 滞 在	延 宿 泊 数	宿 泊 客 実 数	平 均 宿 泊 数	観 光 客 延 数	25 年 延 数	前 年 比	増 減
		284,969	724,692	481,509	243,183	1.98	1,009,661	982,653	2.7
観 光 客 実 数	地 元 客	県 内 客	県 外 客	観 光 客 実 数	25 年 実 数	前 年 比			
	46,467	49,553	432,132	528,152	523,636	0.9			

長崎県観光統計

第9-4表 平成26年対馬の観光消費額

(単位：千円)

日 帰 り 客				宿 泊 客					26年合計 (A)+(B)	25年合計	対前 年比
交通費	飲 食 娯 楽 費	土 産 代	日 帰 合 計 (A)	宿 泊 費	交通費	飲 食 娯 楽 費	土 産 代	宿 泊 合 計 (B)			
2,529,100	711,568	961,200	4,201,868	3,085,510	3,458,955	2,966,164	908,532	10,419,161	14,621,029	13,960,325	4.7

長崎県観光統計

2. 今後の課題

観光産業は、本島の振興において極めて重要であるが、観光客にやさしい観光地づくりを進めるためには、依然として多くの課題を抱えている。

観光・宿泊施設の整備促進、体験型観光メニューや土産品の開発、韓国人観光客に対するおもてなしなどの受入体制の充実や、インターネット等を通じた観光客・エージェントへの積極的な情報発信が求められる。

これらの課題を解決するためには、官民一体となった対馬ならではの地域おこしのための取組が求められる。

第4節 特産品

対馬は、山海の幸に恵まれており、特産品づくりが活発に行われている。市場ニーズに対応した商品の開発、販路の拡大、流通体制の整備といった課題に加え、対馬ブランドの確立が求められる。

○真珠

対馬では古くから天然真珠を産出しており、三重県の志摩地方とともに日本で最も古い産出地であるといわれている。

現在は海面養殖が主で、対馬産の真珠収穫量は4,236kg（平成25年）である。

○対馬木炭

長崎県生産量の約5割（平成25年）を対馬で生産している。

○対州白炭^{たいしゅうはくたん}

対馬に育った天然木を原料にしており、防臭・防湿・防カビ効果にすぐれている。調理の火力としても利用でき、不燃しない。

○若田石硯

若田石硯の名称は、巖原町下原字若田を流れる若田川流域に産出する頁岩で若田石と呼ばれる美しい石紋をもつ石を使用するためこの名がつけられた。

平成3年6月1日には、「長崎県伝統的工芸品」の指定を受けた。

○対馬スルメ

対馬近海は、我が国屈指のいか漁場で、するめの加工は、対馬の特徴ある産業の一つである。

○対馬しいたけ

対馬産の乾しいたけは、肉厚の「どんこ」が特に良質で、全国しいたけ品評会においても高い評価をうけている。

○海藻、貝類

対馬は四方を海で囲まれており、魚介類、海藻類の好漁場となっている。

○清酒・白嶽^{しらたけ}

「白嶽」は、対馬で唯一の清酒で、大正8年より美津島町鶏知において製造がはじめられた。甘口で愛飲家に喜ばれている。

○焼酎・やまねこ、こっぼうもん、対州、伊藤

「やまねこ」は、対馬で唯一の麦焼酎で、昭和60年より製造を再開している。「こっぼうもん」は対馬の方言で『がんこもの』を意味する純米焼酎で、平成17年から製造している。最近では、創業者の苗字をそのまま冠にした芋焼酎「伊藤」や、粕取り焼酎を10年以上熟成させた「対州」も製造している。

○対州地鶏

対州地鶏は、対馬以外に日本で佐渡と沖縄にしか生息しないとされている、髭地鶏の一つである。ブロイラーよりも飼育日数が長いため、肉質はキメ細かで歯ごたえ、うまみがあり、現在赤玉・採卵鳥と交配した卵肉兼用タイプの「つしま地鶏」が飼育されている。

○対州そば

対馬のそばは、日本へ伝わって来たもののうち、最も起原型に近いと推定され、小粒で風味が強いという特徴がある。

料理としては、そばきり（手打ちそば）、そばがき、そばもち等があり、そばきりは、小麦粉等のつなぎを使用しないでも粘りのあるそばができる。

○蜂蜜

対馬の蜂蜜は、蜂洞と呼ばれる直径30～50cm位の木（スギ・けやき・はぜ等）をくりぬき、出入口を下に設けて蓋をした巣箱を用い、上部より蜜を採取する。また、セイヨウミツバチにとって対馬は厳しい環境条件であるため、対馬の蜂蜜はほぼニホンミツバチのもののみと言われており、さらには、採蜜が9月下旬から10月にかけて年1回しか行われないため、希少価値が高いとされている。なお、近年はニホンミツバチを捕食する外来種のツマアカスズメバチが島内で繁殖し、蜂蜜の量が減少しており、ツマアカスズメバチの駆除が課題となっている。

○かすまき

対馬の銘菓で、代表的な土産品の一つ。広く島内の菓子販売店で販売されている。

○せんだんご

サツマイモを唐臼で荒く砕き、発酵などの数工程を経て澱粉をつくり、まるめて天日で乾燥させたもの。

料理としては、六兵衛、せんそば、せんだんご汁等がある。

○太刀魚「^{ぎんた}銀太」

上対馬町近海で獲れるタチウオは、1匹2kgを超えるものもあり、大きさと厚みが刺身用として高い評価を得ている。主に関西方面に出荷されている。

○甘鯛「^{べにおう}紅王」

上対馬町近海で年中水揚げされるアカアマダイで、魚体は桜色で厚みがある。出荷先の京都では、最高級の「ぐじ」として高い評価を受けている。料理方法は、塩焼、煮物、汁物、揚物、刺身等である。

○あじ「対馬てっぺんアジ」

上対馬沖の海域で獲れるアジは、脂乗りと身の締まりが良く、美味であることが知られている。特に、このアジの開き製品は、脂が乗りふんわりと柔らかい身が好評である。

○アカムツ「^{べにひとみ}紅瞳」

深海性の魚。身は柔らかく淡い紅色で、冬には脂が乗り、身も引き締まって美味しい。料理方法は、鍋物や煮付けのほか、塩焼、刺身、蒸しものなどがある。

○養殖マグロ

クロマグロ幼魚（ヨコワ）を浅茅湾内で丹念に育てた養殖マグロ。全身に脂が乗り好評である。中でもブランド化されている「トロの華」が有名。

○天然塩

平成9年3月に塩の専売制が廃止となり、塩の製造、販売等が自由化され、各地で自然塩づくりが行われるようになった。島内でも製塩を手がける事業者が登場し、現在「天日干し」や「平釜式」で製塩する事業者が、健康に配慮した塩づくりを行っている。

○対馬あか牛

対馬あか牛は、褐毛和種という代表的な和牛の一種で、熊本県や高知県等で多く飼育されている。黒毛和種の肉に比べサシ（脂肪交雑）が少ない分、味があっさりしており、定評がある。

○穴子

対馬は穴子の漁獲量が日本一であり、市内の飲食店で刺身や天ぷらなどの様々な調理方法で食べることができ、観光客にも好評である。特に西沖で獲れる穴子は、肉厚で脂の乗りが良いといわれている。「西のとろあなご」と「対

州黄金あなご」というブランドがあり、中でも後者は平成27年度天皇杯を水産部門で受賞した。

○上対馬とんちゃん

戦後、対馬在住の韓国人から伝えられたと言われており、豚のロース肉を醤油や味噌をベースにニンニク、胡麻油などの数種類の調味料に漬け込んだもの。地元の各精肉店が工夫を重ね、様々な味が家庭で楽しめる。

第5節 国際交流

「魏志倭人伝」にも記載されているように、対馬と大陸との交流は古くからなされていたが、現在も、朝鮮半島までわずか49.5kmという地理的条件を活かして、韓国を中心とした国際交流の推進により、地域の活性化を図るための様々な取組がなされている。

1. 韓国との交流

(1) 広域的な交流

昭和61年5月に対馬島と釜山広域市影島区との間で姉妹島の縁組みが、平成6年に対馬町村会と釜山広域市影島区との間で「行政交流に関する協定書」が締結されたことなどを契機として、「行政交流セミナー」が対馬と影島区で交互に開催されるようになり、盛んに交流が行われてきた。平成28年には姉妹締結30周年を迎える。

また、平成17年11月には蔚山市蔚州郡と最初の朝鮮通信使である李藝などの関係で「友好協力了解書」を締結し、韓国で2つ目の友好都市となった。対馬の「対馬巖原港まつり」、影島区の「大橋まつり」、蔚州郡の「オンギ祭り」に双方が参加し、盛んに交流が行われている。その他、昭和52年2月にグアム島と姉妹島協定、平成24年7月には中国上海市の崇明県と友好関係覚書を取り交わしており、今後の交流拡大が期待される。

平成15年に県立対馬高等学校に国際文化交流コースが開設され、韓国の大学

に進学するなど、卒業後は国際人として語学力を活かし、活躍している。

平成15年4月には対馬6町が共同出資で対馬国際交流協会が発足し、対馬釜山事務所が開設された。韓国における情報発信、情報収集、文化交流や観光事業の推進等総合窓口として対馬の交流事業をサポートしている。

平成15年に旧上県町の国際交流員の呼びかけから始まった日韓共同での海外漂着ゴミ清掃では、多くの釜山外国語大学の学生が対馬へ来島し、対馬の住民とともに作業にあたり、対馬市誕生後も引き続き実施されている。また平成19年11月には、上県町からの流れをくむ釜山外国語大学と（株）大亜高速海運、対馬市の3者による「官、産、学の国際交流協定」を締結している。

このほか、ホームステイ事業、韓国語講座、ラグビー・サッカー・野球・テニスや剣道などのスポーツ交流、美術・写真・舞踊の文化交流など様々な事業が行われている。

(2) 民間での取り組み

厳原町時代から続く「厳原港まつり」は、これまでサブタイトルに“対馬アリラン祭”と併記され、日韓交流のお祭りとして広く知れ渡るようになっていた。しかし、平成24年におきた仏像盗難問題で、平成25年韓国の大田裁判所による仏像の返還を一時凍結する「有体動産占有移転禁止仮処分」の決定を受け、同年の「厳原港まつり」からサブタイトルは削除され、「対馬厳原港まつり」と名称を変更している。

また、同年の「対馬厳原港まつり」では、昭和55年から続いてきた朝鮮通信使行列振興会による「朝鮮通信使行列の再現」は中止されたが、平成27年に3年ぶりに再開された。（平成26年から再開される予定であったが、台風の影響で実施できなかった。）平成27年は日韓国交正常化50周年の節目の年ということで、東京・ソウルでの日韓交流おまつりや、京都市など各地で大々的に通信使行列再現事業を手がけた。

美津島町時代の平成8年から日韓のミュージシャンによる野外コンサート「対馬ちんぐ音楽祭」が同実行委員会により実施され、日韓両国からの参加者で盛り上がりを見せていたが、前述の仏像盗難問題により実施が困難となった

ため、新たに実行委員会を立ち上げ、平成27年に「つしま海道音楽祭」として開催された。

また、上対馬町では平成9年から「国境マラソンIN対馬」が同実行委員会により開催されている。平成13年には韓国の「慶州さくらマラソン」と「国際親善マラソン大会交流（提携）協定」が締結され、日韓両国からの参加者は毎年1,300人を超えている。

(3) NPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会

朝鮮通信使の平和の誠信を継承した自治体や関係団体が友好交流のネットワークを築くことにより、相互の地域間交流と韓国との国際交流を進めることを目的として「朝鮮通信使縁地連絡協議会（以下、縁地連という。）」が平成7年11月に旧厳原町で結成された。結成時は対馬6町を含む20自治体、6関係団体であったが、平成26年9月にはNPO法人に移行し、平成27年12月現在、京都市、名古屋市、下関市、静岡市などの大都市を含む18の自治体、43の関係団体、106の個人会員で構成されている。

縁地連は、平成8年から「朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会」を加盟団体の会場で開催しており、シンポジウム、舞踊、音楽などのステージ発表や朝鮮通信使行列の再現を中心に実施されている。22回目の平成27年度は岐阜県大垣市で開催され、平成28年度は広島県福山市で、平成29年度は京都市での開催が決まっている。

また、平成24年からは平成23年の「朝鮮通信使日韓文化交流事業協同推進協定書」を交わした財団法人釜山文化財団と日韓共同で朝鮮通信使の関連資料をユネスコ記憶遺産に登録する事業を推進している。平成26年には縁地連内に朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会を組織し、その諮問組織として同日本学術委員会を組織した。平成28年1月29日に最後の日韓共同推進会議が対馬市で開催され、併せて申請書の調印式が行われた。同年3月にはユネスコへ申請書を提出された。

このように朝鮮通信使の日本国内における中心組織として活躍が続いている。

2. 出入国者数

現在、対馬には外国貿易並びに出入国者を管理するための国の機関として、門司税関厳原税関支署、福岡検疫所厳原・比田勝出張所、福岡入国管理局対馬出張所の3施設がある。

平成11年7月に(株)大亜高速海運の「シーフラワー」(平成24年2月から「オーシャンフラワー」)が就航、また、JR九州高速船株式会社の「ビートル」が不定期ながら比田勝に寄港するようになり、毎年韓国からの観光客数が右肩上がりで増加している。

平成23年10月にはJR九州高速船株式会社の「ビートル」が定期航路として就航、翌11月には未来高速株式会社の「コビー」が就航し、11月より3社体制となった。これにより平成24年からは飛躍的に入国者数が増加し、その年は15万人を超え、平成27年には21万人を超えた。

一方、空路では平成21年7月にKEA(コリアエクスプレスエアー)による韓国～対馬間の国際プログラムチャーター便の運航が始まったが、平成25年7月から運休している。

第9-5表 出入国者数の年次別推移

(単位：人)

年	入国者数				出国者数				計
	厳原港	比田勝港	対馬空港	小計	厳原港	比田勝港	対馬空港	小計	
平成23	(28,313)	(18,484)	(1,720)	(48,517)	(20,590)	(25,360)	(1,653)	(47,603)	(96,120)
	28,604	19,513	1,728	49,845	21,018	26,523	1,659	49,200	99,045
24	(74,046)	(77,462)	(1,089)	(152,597)	(68,863)	(82,508)	(1,101)	(152,472)	(305,069)
	75,048	79,355	1,143	155,546	69,743	84,562	1,155	155,460	311,006
25	(78,331)	(104,783)	(929)	(184,043)	(74,980)	(107,690)	(926)	(183,596)	(367,639)
	79,099	106,572	930	186,601	76,637	109,493	927	187,057	373,658
26	(76,392)	(120,470)		(196,862)	(78,489)	(118,324)		(196,813)	(393,675)
	77,036	121,757		198,793	79,599	119,572		199,171	397,964

※上段カッコ書きは外国人内数

法務省入国管理局出入国管理統計

※クルーズ船等、他の港等からの出入国数は含まれていない。

第9-6表 対馬～釜山航路による韓国人入国者数<実数>の推移(暦年)

年	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	平成26	平成27
入国者数(人)	44,930	58,554	46,003	149,748	180,886	194,032	213,676
対前年比(%)	62.1	130.3	78.6	325.5	120.8	107.3	110.1

対馬市調

第16-5表 対馬と韓国との交流

年月日	国際交流に関する事項
1980. 5.	・李朝通信使行列振興会設立（S53年から厳原港まつりで李朝通信使行列を再現。平成元年より「李朝通信使」を「朝鮮通信使」と改める）
1983. 11. 8	・上対馬・影島区友好親善協会結縁対馬島との結縁のため発展的に解消
2. 21	・つしまライオンズクラブと釜山東洋ライオンズクラブが姉妹縁組
1984. 11. 17	・つしまハムクラブと釜山ハムクラブが姉妹縁組
1986. 4. 27	・日韓友好親善の船訪問地：釜山，慶州（島内外客約400名）
5. 16	・対馬島と釜山市影島区との姉妹島縁組調印（影島区（牧ノ島）人口22万人）
6. 10	・上対馬町七丁櫓「地舟」朝鮮海峡を渡る（団員23人53km 9時間）
1987. 4. 28～	・第8回日韓親善ヨットレース（主催日本外洋帆走協会玄海支部）
6. 8～	・対馬島・影島区友好親善姉妹縁組1周年記念友好親善旅行（3泊4日）
6. 11	・ソウル - 慶州 - 釜山団員108人当初直行チャーター便計画（対馬空港着陸不能で中止）
7. 4	・第1回対馬釜山海峡横断カヌーレース（主催上対馬町ほか）
7. 15	・日韓共同民族調査（民族音楽舞踊古典文学建築等）
7. 25～	・対馬少年少女合唱文化交流使節団釜山影島区で演奏交流
1988. 6. 2～	・長崎県観光連盟と釜山直轄市観光協会の姉妹締結調印式に、対馬島・影島区友好親善
6. 4	協会副会長出席
8. 6～	・対馬アリラン祭（厳原港まつりに、対馬アリラン祭の名称を併記）
8月	・新羅国使者慰霊碑建立（上県町佐護湊浜）
1989. 5. 31～	・全国離島交流ゲートボール親善大会に、釜山市影島区より役員選手17名が参加
6. 2	・韓国釜山市影島区長が、高田知事に釜山～対馬間の定期航路開設等を要望
6. 12	・上対馬～釜山航路開設へ向け、臨時便第1号が出航（上対馬町）
7. 15～	・対馬3高校（対馬・豊玉・上対馬）生徒545人、韓国へ修学旅行
7. 19	・三浦湾（美津島町）～釜山港（韓国）、西日本汽船「ゆうとびあ」（9,991トン）をチャーター
8. 27	・上対馬～釜山航路開設に向け、新会社「対馬国際ライン（株）」設立
10. 25	・「対馬国際ライン（株）」が建造していた小型旅客船「あをしお」完成、比田勝港へ回航
	・対馬、韓国釜山市影島区、グアム島親善国際ヨットレース開催
	・韓国盧泰愚大統領来日、宮中晩餐会の挨拶で対馬藩の雨森芳洲をとりあげる
1990. 5. 3～	・対馬、韓国釜山市影島区、グアム島親善国際ヨットレース開催
5. 24	・韓国盧泰愚大統領来日、宮中晩餐会の挨拶で対馬藩の雨森芳洲をとりあげる
5. 27	・朝鮮通信使シンポジウム対馬
7. 18	・韓国世都フェリーが、3年4月から400トン・300人乗りを厳原～馬山間に就航させる計画を発表
7. 24	・東京、神戸、福岡のグループがリレー方式で朝鮮海峡遠泳横断を試みるが、荒天のため断念
8. 5	・雨森芳洲顕彰碑除幕式
8. 11	・対馬空港より日韓親善釜山訪問熊本飛行隊の軽飛行機5機20人が釜山空港へ親善飛行
10. 18～	・日韓海運協議が釜山（韓国）で開催され、厳原～馬山間の航路開設が合意される
1991. 1. 30	・韓国南岸の自治体と、長崎、福岡、佐賀三県代表による日韓自治体サミットを対馬で開催する構想が公表される（長崎県）

年月日	国際交流に関する事項
1991. 3. 20	・「朝鮮国訳官使洵難之碑」除幕式（上対馬町鰐浦）
4. 28～	・博多～対馬～韓国釜山「第10回日韓親善ヤマハカップアリランヨットレース」開催
6. 5～	・対馬（上県町掉崎）～韓国釜山間 53 k m の朝鮮海峡遠泳リレー横断成功
8. 3	・博多～釜山間に就航の JR 九州の「ビートル 2 世号」が初めての対馬臨時寄港（厳原港）
8. 17～	・平成通信使交流事業として韓国・釜山市より招いた観光協会、旅行代理店、マスコミ関係者ら 9 人の対馬島視察団が海路、対馬入り
10. 8～	・美津島町が韓国人講師雇用，ハングル講座を開講
10. 25～	・平成通信使交流事業として「長崎県対馬島大韓民国友好親善訪問団」釜山，慶州を訪問
1992. 4. 1～	・厳原町が釜山直轄市の職員を嘱託として採用
8. 24	・韓国を中心とした諸外国との交流の窓口として対馬国際交流協会設立
8. 25	・日韓海峡沿岸県・市・道知事交流会議
11. 26	・対馬海峡海難者追悼之碑除幕式（峰町青海）
1993. 2. 8～	・対馬ロータリークラブ，巨済ロータリークラブ姉妹縁組締結式
3. 31	・長崎県ソウル事務所開設を記念して韓国訪問団（団長：長崎県知事）を派遣
4 月	・対馬厳原～韓国馬山間の国際定期旅客航路の開設に向け、馬山から厳原に 1 回目の試験航海実施
4. 19	・県立豊玉高校において、韓国語を第 2 外国語として導入
6. 1～	・対馬厳原～韓国馬山間の国際定期旅客航路の開設に向けた 2 回目の試験航海実施
7. 8	・厳原町，国際交流嘱託員を採用（～H8. 3. 31）
8. 3	・対馬厳原～韓国馬山間の国際定期旅客航路の開設に向けた 3 回目の試験航海実施
8. 3	・対馬厳原～韓国馬山間の国際定期旅客航路開設（定期航路としての最初の入港）
9. 16	・第 1 回「対馬韓国交流懇談会」を対馬支庁会議室において開催
11. 1	・美津島鶏知中学校と釜山市影島区新仙中学校が姉妹校縁組締結
1994. 2. 4	・釜山市影島区新仙中学校関係者（雀校長ほか 3 名）が姉妹校である鶏知中学校を訪問
4. 8	・峰町・上県町職員各 1 名を県ソウル事務所へ派遣研修（1 年）
8. 7	・対馬アリラン祭会場において、孔駐日韓国全権大使が韓国政府メッセージを読み上げ
8. 23	・第 1 回芳洲外交塾開設準備委員会開催
9. 2	・対馬 6 町と韓国釜山直轄市影島区の行政交流協定書調印式
10. 18	・第 2 回芳洲外交塾開設準備委員会開催（長崎市）
1995. 7. 7	・上対馬～釜山国際海峡横断シーカヤクトライアル
11. 16～	・芳洲外交塾開設
11. 18～	・朝鮮通信使縁地連絡協議会对馬結成大会（対馬市厳原町）
11. 21	・第 1 回「日韓交流行政セミナー」開催（主催：対馬総町村組合、場所：厳原町）
1996. 3. 27	・博多港と韓国釜山港を結ぶ JR 九州の「ビートル 2 世号」が、年間 10 万人の乗船人員達成
4. 1	・厳原町観光商工課に韓国釜山広域市出身の国際交流員着任
7. 24～	・日韓小学生の男子サッカー交流試合を韓国・釜山広域市において開催
9. 4	・韓国三星航空産業が、国際ヘリ運航で基本合意を交わしている上対馬町を現地視察
9. 18～	・「日韓青少年スポーツ親善大会（バスケットボール）」を厳原町において開催
9. 30～	・対馬島と韓国釜山広域市影島区との間で行政職員相互交流

年月日	国際交流に関する事項
1996. 10. 29	・「対馬ちんぐ音楽祭」Vol.0（プレイベント）を美津島町で開催
1997. 1. 17～	・韓国の新仙中学（釜山・影島区）の生徒及び教諭が、姉妹校の鶏知中学訪問
4月	・「日韓親善 DoCoMo 九州カップ・ヨットレース（対馬レース）」開催
5. 11	・上対馬町の「韓国展望所」落成式
7. 6	・第1回「国境マラソン IN 対馬」を上対馬町で開催
7. 26	・「対馬ちんぐ音楽祭」Vol.1を美津島町で開催
8. 1～	・韓国済州島出身の写真家・高喜仙さんの写真展を厳原町で開催
8. 6～	・県立上対馬高校生が、韓国光州市で日・中・韓の高校生国際交流に参加
8. 21～	・日韓中学生の女子バレーボール交流試合を韓国・釜山広域市において開催
9. 28	・対馬島郷土芸能保存会が、韓国・慶州市「慶州ナザレ園（在韓日本婦人保護施設）」
11. 8	慰問 ・第2回「韓国嶺南地区専門大学生日本語弁論大会」を上対馬町において開催
11. 9	・「対馬と韓国の文化交流史」特別展及び県立対馬歴史民俗資料館開館20周年記念
12. 6	式典 ・厳原港国際ターミナル開所式及び韓国人観光客歓迎式典を厳原町において開催
12. 7	・崔益鉉先生殉国九十周年追慕祭を厳原町において開催
1998. 5. 16	・第1回「日韓バドミントン親善交流大会」を韓国・釜山広域市において開催
9. 25	・県立豊玉高校生が、韓国修学旅行で釜山広域市の高校生と交歓会開催
10月	・上対馬高校生が、韓国大洪水への見舞金約7万8千円を在日韓国民団地方本部に
11. 13～	寄託 ・上対馬町の写真愛好家グループが、韓国釜山広域市で合同撮影会
11. 19～	・「老岐対馬国定公園指定30周年記念日韓交流写真展」を上対馬町、厳原町で開催
1999. 7. 14	・釜山～厳原港高速船就航（シーフラワー号）
2000. 4. 3	・厳原・釜山間の国際航路が定期就航化
7. 11～	・対馬 코리아ウィーク
7. 27	・今里中学校と韓国只沙中学校の姉妹校締結
8. 29	・SBS2002年日韓ワールドカップの成功開催のための大韓海峡横断
9. 25～	・慶州世界文化エキスポ2000参加
9. 29～	・対馬日韓交流協議会設立
2001. 1. 20	・新世紀友情の音楽祭 IN 対馬
4. 10	・比田勝・釜山間の航路開設
4. 6～	・慶州さくらマラソンと国境マラソン IN 対馬姉妹締結調印式
7. 31～	・釜山海まつりと対馬アラン祭の交流事業釜山海まつり通信使パレードに、対馬
11. 10	藩武士団が初参加 ・「李王家・宗伯爵家御結婚奉祝記念碑」復元除幕式
11. 24	・日韓ヤマネコシンポジウム
2002. 2. 8～	・第1回「新芳洲外交塾」を厳原町で開催
4月	・県立対馬高校生2人が釜慶大学校へ留学
5. 31	・厳原郵便局と影島郵便局が姉妹郵便局提携書を締結
7月	・県立上対馬高校プラスバンド部が、第23回釜山管楽定期演奏会へ参加
7. 19	・オーシャンホテルオープン（厳原町）
7. 31	・厳原港まつり 対馬アラン祭・釜山海まつり友好交流協約書締結
8. 2	・対馬大垂ホテルオープン（厳原町）
10. 4～	・JAPAN-KOREA 市民交流フェスティバル 2002in 対馬開催
2003. 3. 7	・朝鮮国訳官並従者殉難霊位碑建立除幕式（上対馬町）

年月日	国際交流に関する事項
2003. 3. 27	・浅海中学校と蔚山広域市熊村中学校が姉妹校締結
4. 18	・対馬国際交流協会釜山事務所開設（韓国・釜山広域市倭館跡地内）
5. 13	・日韓青少年親善競技会（空手・テコンドーの交流競技会）
2004. 6. 19	・釜山の慶星大学校で「第1回日本歌謡大会」を開催 17組参加
11. 16	・シーフラワー2比田勝港へ初入港（翌21日、厳原港へ入港）
11. 27	・雨森芳洲先生没後250年祭（主催・雨森芳洲先生没後250年祭実行委員会）
2005. 2. 1	・蔚山広域市蔚州郡と「文化交流協力に關する意向書」を締結
9. 9	・朝鮮通信使縁地連絡協議会と韓国の朝鮮通信使文化事業推進委員会が「日韓文化交流事業協同推進協定書」を締結
11. 15	・蔚山広域市蔚州郡と「友好協力了解書」を締結
2006. 4. 14	・1986年に締結した対馬6町と影島区の姉妹縁組を対馬市として新たに締結
12. 9	・釜山出身者を対馬市国際交流員に委嘱
2007. 4. 12	・対馬市交流センターで日韓交流シンポジウム IN 対馬を開催
7. 20～23	・釜山出身者を対馬市国際交流員（上県支所勤務）に委嘱
9. 21	・朝鮮通信使400周年記念「通信使外交塾」を開催国内11人、韓国から18人が参加
9. 21	・（株）大亜高速海運が運行する対馬～釜山国際航路にドリームフラワー号が就航
11. 13	・2003年に旧上県町が、釜山外国語大学校と（株）大亜高速海運との間で締結。
2008. 5. 31	官・産・学の国際交流協定を対馬市として新たに締結
2008. 5. 31	・釜山外語大学校のボランティア海外清掃（田の浜、湊浜）
8. 28	・対馬市・影島区行政交流セミナーを影島区で開催予定だったが領土問題により中止
2009. 7. 24	・K E A（コリアエクスプレスエア）による韓国・対馬間の国際チャーター便の運航はじまる（大邱，対馬間）
10. 9	・国際チャーター便を金浦空港～対馬空港間に切り替え運航（大邱～対馬線は廃止）
2010. 4.	・国際航路が毎日運行開始（その前は、毎週火曜日が運休日）
5. 7	・金海（釜山）空港～対馬空港間で、国際チャーター便運航開始
7. 14	・国際航路定期就航10周年記念式典を対馬で開催
9. 10	・厳原港新国際ターミナル供用開始
10. 1	・国際ターミナル使用料を徴収開始（厳原・比田勝）200円/人
11. 1	・ソウル・釜山間を結ぶ韓国の新幹線K T Xが全線開通
11. 6～7	・日韓交流写真・美術展が、対馬市交流センターで開催される
11. 12～14	・国境フォーラム in 対馬が、対馬市で開催される
2011. 3. 28	・大亜高速航路運休
6. 17	・大亜高速航路運航再開
10. 1	・JR九州 対馬釜山間国際定期航路就航
11月	・国際航空路の金海（釜山）線が廃止
11. 1	・未来高速 対馬釜山間国際定期航路就航
11. 6～7	・日韓交流写真・美術展が、対馬市交流センターで開催される
11. 12～14	・国境フォーラム in 対馬が、対馬市で開催される
11. 5～6	・第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会対馬大会開催、ミュージカル対馬物語公演

年月日	国際交流に関する事項
2012. 10. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮通信使日韓文化交流事業共同推進協定書締結式実施 ・縁地連釜山大会開催及びミュージカル「対馬物語」釜山公演（影島区） ・韓国の窃盗団により対馬の仏像2体と経典が盗まれる事件発生（海神神社・観音寺）
2013. 1 2. 28 7. 21 10. 7 10. 19 11. 17	<ul style="list-style-type: none"> ・仏像窃盗団が韓国内において検挙される ・韓国の大田地方裁判所で盗まれた仏像について移転禁止の仮処分が決定 ・国際航空路の金浦（ソウル）線が運航休止 ・芳洲外交塾の復活版、「日韓未来塾」が開催される ・ミュージカル「対馬物語」長崎公演 ・最後の「ちんぐ音楽祭」が交流センターで開催される
2014. 3. 1 3. 19 5. 21 6. 23 8. 2 9 月 10. 26 11. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・対馬市合併10周年記念イベント開催 朝鮮通信使対馬顕彰事業会設立 ・朝鮮通信使縁地連絡協議会にユネスコ記憶遺産日本推進部会を設置 ・朝鮮通信使縁地連絡協議会にユネスコ記憶遺産日本学術委員会を設置 ・仏像返還にかかる移転禁止の仮処分の決定を受け、厳原港まつりに併記していた「対馬 アリラン祭」の表記を削除。併せて、同まつりでの朝鮮通信使行列を中止。 ・朝鮮通信使縁地連絡協議会がNPO法人化 ・対馬国境花火開催（比田勝） ・韓国の窃盗団により対馬の仏像、経典が盗まれる事件が発生したが、対馬内で逮捕され盗まれず（大船越 梅林寺）
2015. 3. 15 5. 30 7. 24 8. 2 8. 29 10. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・ソウルで対馬の桜を使用したモデルハウス展示開始（2ヶ月間） ・日韓友好の集いを対馬交流センターで開催 ・平成24年に韓国に盗まれた仏像のうち1体が対馬に返還 ・対馬厳原港まつりで2年ぶりに朝鮮通信使行列が復活 ・第1回つしま海道音楽祭が開催される ・国境花火大会開催（山火事で途中中止）
2016. 1. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮通信使の関連資料をユネスコ記憶遺産に登録申請をするためNPO法人朝鮮通信使縁地連絡協議会と釜山文化財団が共同申請書に調印